



149

公益財団法人 すぎのこ芸術文化振興会

事務局：〒171-0022 東京都豊島区南池袋4-19-6 TEL.03-3984-2396 FAX.03-3984-2264
 飯能研修センター：〒357-0063 埼玉県飯能市飯能325-2 TEL.042-971-4121 FAX.042-971-4155
 滝沢研修センター：〒377-1611 群馬県吾妻郡滝沢村千原 TEL.0279-96-1015 FAX.0279-96-1015

2018 1/1

2面・3面 巡回公演日より／園からの声
 4面 制作日より／園からのおたより／発声・歌遊び講習会／事務局よりご挨拶／活動記録 ほか

http://www.suginoko.org/

E-mail: support@suginoko.org

すぎのこ飛躍の法則

理事長 大場 隆志

新年、明けましておめでとう
 ございます。

皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、皆様におかれまして本年も素敵な一年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

私が理事長に就任して初めて

新しい年を迎えることとなり、

私自身も今年はすぎのこ芸術文化振興会にとって飛躍の年となるよう、全身全霊を捧げていきたいと思っております。

すぎのこの創立は一九六四年の東京オリンピックの年で、今年で創立から五十四周年を迎えます。

謹賀新年

西湖から富士を望む

平成三十年元旦

二〇二〇年には次の東京オリンピックが開催されますので、あと二年で東京オリンピックから東京オリンピックまで芸術文化振興活動を続けてきたこととなります。

一般的に企業の生存率が十年で6%、三十年で0・1%と言われる中、すぎのこは五十四周年を迎えることができました。これもひとえに皆さまのご支援の賜物と心から感謝致しております。

五十年以上前に二十年後、三十年後にも価値を提供できる人形劇を制作し、今なおお客様に愛され続けていただいております。普通の会社で考えると、超ロングセラー商品と言えます。

そう考えますと、創立者小澤明氏をはじめ、前理事長の小澤幸雄氏ならびに過去のすぎのこの関係者の皆様の偉大さと素晴らしいさを改めて感じることができそうです。

しかし、五十年以上もたちますと、さすがに同じモデルでは、その価値を維持することは難しくなってきたており、それが今のすぎのこの大きな課題となっていると言えます。

それでは、これから二十年先、三十年先までも人々から愛される価値をどうやって創っていけば良いのか。

昨年、文部科学省が新しく学習指導要領を改定しました。今回の改訂の基本的考え方の中に記載されている知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等

の育成のバランスを重視することとは現行も同じですが、新しい学習指導要領では更に学びに向かう力、人間性や表現力などのコミュニケーション能力を高めることを目的としています。

よく考えてみると、演劇のトレーニングは「表現力」や「コミュニケーション力」の練習そのものであり、演劇トレーニングは、今の子どもたちに求められる「表現力」や「コミュニケーション力」を得る効果的なプログラムであると言えます。

昔は地域社会や祖父母、兄弟から普通に学べた「コミュニケーション力」や「表現力」が、学びにくい環境になってきている近年において、学校教育として教えていく必要があるということです。

演劇は海外（アメリカ、イギリス、オーストラリアなど）では、生きる練習と言われ、学校の授業でも実践されており、子どもの成長過程において必須とされています。子どもたちが社会の中で自然に学ぶことが難しい現代社会では、やはり演劇的な授業を取り入れ、教育の一部として、疑似体験的な教育をしていくことが望ましいのではないかと考えております。

そして今年、公益財団法人すぎのこ芸術文化振興会は、演劇教育を通じた学習指導におけるお手伝いを、教員の皆さまと共に取り組み、学校教育を通じて、子どもたちが未来の社会を切り拓くための能力や資質の育成に

貢献したいと思っております。今から三十年もすれば、世界の人口と同じくらいのロボットが誕生しているという世の中になると言われております。

車も運転する必要が無くロボット化し、ありとあらゆるものがロボット化するはずですが。当然、人間よりもミスが少なく、二十四時間働くことが可能になりますから、ロボットができることは、すべてロボットが行う時代になるというわけです。

しかしそんな時代だからこそ、人間にしかできないサービスというものが大きな価値を生むことになる時代が訪れると私は確信しております。すぎのこ芸術文化振興会が行っている仕事は、当然ロボットに代わることでできない、人間にしかできない価値があります。

ロボットがロボットダンスを踊っても面白くありません。人間がロボットダンスを踊るから面白いいし、感動します。そういう意味で、すぎのこが行っている演劇という価値は、人間にしかできないという価値を持っているので、これからの大きなチャンスになると思っております。子どもたちの未来を育てる演劇教育として、人間にしかできない価値を創る芸術文化振興として私たち、すぎのこ芸術文化振興会は、これからも飛躍しつづけてまいりますので、本年もこれまで同様のご指導とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

巡回公演だより

三まいのおふだ班

吉田 薫

29年度からの新作「三まいのおふだ」は、上演を始めてまだ一年たっていない新人。これからも進化を続けるこの作品が、2018年はどんな色になっていくのか、演じている私もワクワクしています！

先日うかがった園では、祖父母参観ということで、子どもたちとおじいちゃん、おばあちゃんたちが一緒に観劇してくれました。

「やまんば」「こわい」というイメージを持つ子どもたち、始まる前からドキドキした表情を浮かべています。その後ろで、ほほ笑みながら見守る祖父母の皆さん。その目はとっても優しく温かくて、



岩手県釜石市栗林児童館

日本の昔話を通じて時と時、人と人が繋がる瞬間、「三まいのおふだ」や他の昔話というのは輝きを増すのだなあと実感しました。

いつか、この作品を見た子どもたちが「ぼく（わたし）もやまんば怖かったなあー」と思い出してくれる日が来たら：その目の先に子どもたちの愛しい光があれば：そんなまばゆい未来を想像しながら、これからは「やまんば」を演じていきたいと思う今日この頃なのです。

おだんごばん班

榎田 ありさ

「おだんごばん」のおばあさん役を担当しています。昨年の6月に入団して早7ヶ月、初めての経験ばかりで月日が経つのがあっという間に感じました。

先日岡山県のある園に巡回に行き、初めて給食を子どもたちと一緒にした時、『ドラキュラと吸血鬼の違い』や『ゾンビの居所』を教わるなど楽しい時間を過ごして、子どもたちから元気をもらいました。こういう経験もこの仕事ならではで、とても新鮮でした。楽しいばかりではなく子どもはどの子も天才だと改めて感じ、勉強になりました。

普段仕事をしていく上で子どもたちの笑顔にふれることも多くあり、毎日がとても充実しています。今まで経験したどの仕事よりも大



岡山県出部幼稚園 人形劇のためのチケットとお金を手作り

変ではあるけれど、楽しくやりがいを感じています。子どもたちをはじめ、園の先生方や職場の先輩方に勉強させていただいているなと実感する毎日です。まだまだできないことの方が多い私ですが、日々己に課した課題をクリアして精進していきたいと思っています。

ももたろう班

齋藤 裕太

昨年の6月から入団しました。9月から10月、11月、12月、と初めて九州地方に桃太郎役で巡回公演をしてきました。緊張していた私に先輩方が優しくご指導してくださり、おかげで成長できたと思っています。

私の演じる人形劇で、子どもたちに明るく楽しく元気に笑ってほしい。そのためには少しでも多くの練習を重ねて、ほんの少しでもいいので結果を出したい。子どもたちに、「お兄さんがやった人形劇がとっても面白かったから、また見せに来てね」と言ってもらえるよう、自分のできる限り精進していこうと思います。

この先、子どもたちだけではな

園がらの声

おだんごばん

■匿名希望（島根県益田市）

子どもと一緒に振り付きの歌があったり、子どもが入場する際、出迎えてタッチしてくださるなど、子どもたちがとても喜んでいました。道具の出し入れの時も安全に配慮されており、とても助かりました。

■東仙道保育所（島根県益田市）

子どもたちはとても喜んで見ていました。手遊びと歌で子どもたちも参加でき、とても楽しかったと思います。手遊びもゆっくりしていねいに教えてくださったので、子どもたちも分かりやすく上手にできました。

時間もちょうどよく、飽きたり、嫌になる子どもなく、最後まで楽しく見ることができました。

■金光学園（岡山県浅口市）

会場に入る子どもたちを迎え入れたり、公演後には見送ってくださったり、触れ合いがあつて嬉しかったようです。台詞に抑揚があったり、見慣れた人形劇と違い身体と一体になった人形だったのも、とても引き込まれました。

ももたろう

■友愛幼稚園（鹿児島県いちき串木野市）

演者の三名の方々、それぞれ声もよく、演技方もすばらしかったです。海の場面で、きらきら光る海の上を飛ぶ「とびうお」がとても美しかったです。子どもたちは、桃太郎が生まれる場面、「おぎゃおぎゃー」の声に歓声をあげてい

ました。生まれる喜び――、子どもの純真な共感の笑いに感動しました。

■昭徳保育園（長崎県佐世保市）

今年度は日本昔話「ももたろう」の観劇でしたが、子どもたちも話の内容が分かり、見やすく入りやすかったと思います。最初の鬼の登場は印象的でした。舞台装置も場面の区切りで変化したりしますが、あえて人間はかくれず歌ったり、表現しており、気にならずに見ることができました。

いつも細かい配慮等があつて感心させられます。昨年度の「おだんごばん」の手遊びは、今でも子どもたちと楽しんでいます。

そっくろのひき

■片品保育所（群馬県利根郡片品村）

命がテーマの人形劇で、観終わると心がジーンとしましたが、全体的に大人が観ても子どもが観ても、楽しい作品でした。

知っている歌も流れて、子どもたちも嬉しそうに口ずさんでいました。「夏の思い出」は、尾瀬に近い片品村に関わりがあるので、私自身も嬉しくなりました。

■大里南幼稚園（沖縄県南城市）

幼稚園の生活発表会は、子どもたちが考えた劇をするので、導入で作れる人形を教えてもらえてよかったです。次回もぜひ取り入れてほしい。舞台をさわらせてもらったり、小道具の作り方を教えてもらい、とても喜んでいました。

三まいのおふだ

■旭ヶ丘幼稚園（宮城県仙台市）

年少には少し怖い部分もありましたが、様々な教訓が含まれた楽しいお話でした。最初から最後まで、子どもたちを引きつけて盛り上げる工夫がなされていてよかったです。

子どもたちがわくわくドキドキしながら物語を楽しんでいる様子を見て、今年も人形劇をお願いし

てよかったです。絵本や紙芝居とはまた違い、様々な音や演出や動きなどを体感してより興奮していたように思います。

同時上演の「おおきなかぶ」もみんなで引つ張るところがとても楽しかったようです。

■ひばり保育園（山形県鶴岡市）

なじみのある「三まいのおふだ」のお話でしたが、ユーモラスなやまんばだったり、お相撲さんや龍などオリジナルも加わり、とても楽しく見させていただきました。

これから、お遊戯会の劇ごっこにこのお話をと思っているので、楽しみながら遊べる内容でよかったと思います。

■旭ヶ丘保育園（青森県八戸市）

よく知られている「三まいのおふだ」ですが、お札を授けるのが廁の神様という話が新鮮でした。物語の所々にアナウンサー風の口調とか、演歌歌手っぽい登場や歌い方とか、現代風の演出がされていて面白かったです。場面の変わり方も、シンプルだけど興行が感じられました。

子どもの想像力をふくらませて観賞できる「おおきなかぶ」の木彫りの人形も、とてもよかったです。最後の見送りでは、やまんばの人形を怖がる様子の子が前を通る時、たもとでやまんばの顔を隠してバイバイしてくれました。

もくもく劇場（首都圏班）

■慶應南台保育園（埼玉県川越市）

乳児・幼児ともよく観ていました。劇団の方の声、演出がとてもよかったです。

■みどりが丘幼稚園（茨城県取手市）

初めてだったこともあり、心配な点、不明な点があり、何度も問い合わせをしてしまいましたが、いつも丁寧に対応してくださり、ありがとうございました。

子どもたちの反応もよく、職員一同も、とても楽しませていただきました。



今でも難しいなと悩みながら演じています。

コンちゃんを演じるにあたり、子どもたちと同じくらしい年齢の女の子になつたつもりで、そして園の子どもたちを見て感じる無邪気さをイメージして、あくまで等身大でいることを心がけるようにしています。

子どもたちが、お話の中に入り込んで一生懸命応援してくれたり感情移入して涙を流したり、ナマの舞台で一体となった時、観劇後、じわりと温かい余韻が残ります。

く観ていただいている大人の方々にも、人形劇を通じて共感、感動を伝えることができる、そんな人形劇をやっていくことが、私の「すぎのこ」を通じての人生の目標です。その目標を叶えるためには何年、何十年かかるか正直分かりませんが、日々、全力を尽くしていく所存です。

そっくりのくりのき班 長谷川 唯

三年前、すぎのこに入団して間もなく、「そっくりのくりのき」の稽古を見学した私は、「素敵。私もこの世界に入りたい。自分が感動したように、この感覚を子どもたちや観た人に感じてもらいたい」と、想像力膨らむリアルな舞台の雰囲気、温かみのある音楽、その中で繰り広げられる命のつながりのお話に心惹かれました。

ずっとやりたかったお話。自分で届けたいと願ってきたお話を演じられるという嬉しさ反面、自分の好きなお話だからこそ演技に納得がいかず、



三年前、やなせさんはアンパンマンを息子のように思っていました。

やなせさんから生まれた子どもたち（歌や物語）は時代を超えて、これからも多くの子どもたちの記憶に、心に受け継がれていくことでしょう。

もぐもぐ劇場

もぐもぐ劇場（首都圏班）は、昨年、北は福島県から南は静岡県など首都圏を中心に公演を行いました。

作品によっては、相手との二人芝居で、今回は、新人の女性と上演しましたが、若いエネルギーをもらい、少し、若返った……ようです。（上演した園の先生から、親子ですか……と言われましたが）

今年は、過去53年間の作品を総点検・整理をして、その中から、もぐもぐ劇場（首都圏班）のレパートリーにふさわしい作品を選び、お届けしたいと思っています。

（下村 あきら）

昨年の6月に入団しました。昨年の9月から首都圏で活動してきましたが、上演していく中で子どもたちの反応がその都度違うため、いろいろと学ぶことが多いです。

もぐもぐ劇場では、「三びきのこぶた」を中心に、「かもとりごんべえ」と「ねずみの嫁入り」を上演しています。「三びきのこぶた」は子どもたちも知っているお話なので、反応は様々ありますが、元気が声毎回聞こえてきます。私が演じている「ねずみの嫁入り」は、難しい内容ではありますが、最後まで真剣に観て、時々、語り

ほんわか劇場（九州特別公演）

■相愛保育園（宮崎県都城市）
三本立てだったので、小さい子どもたちも飽きずに観ることができました。ストーリーもわかりやすかったです。

ピーマン嫌いの4歳の男の子が、次の日、ピーマンを食べていました。



の部分で手拍子してくれる子どもいました。

最後に出入口でお見送りをする
と、「楽しかった！」「また来てね！」など沢山の言葉を貰い、中にはギュッと抱きついてくれる子や、片付けが終わったあと玄関や園庭で見送ってくれる子もいました。そんな子どもたちの笑顔が私の支えになっています。

今後も子どもたちの笑顔が見られるように、日々努力して今まで以上に喜んでもらえる人形劇をお届けしていきたいと思っています。

（後藤 絢子）

ほんわか劇場

わだ よひい

伊草梨津子さんは「すぎのこ」で、故小澤明（すぎのこ初代代表）の片腕となり、「すぎのこ」の美

た。そして「ぼくね、ピーマン好きだから!!」と言っていました。

「昨日ピーマン君が、嫌いって言うてる子がいるから悲しい、って言ったから？」と聞くと、大きくうなずいていました。

■どんぐり保育園（宮崎県湯都木城町）
一人でテンポよく全てを進め

術を担ってこれた時期もあった方です。

長年「すぎのこ」の美術に関わられ、ほんわか劇場でも「星の王子さま」の人形と美術、「どうさん」のご挨拶、「へっこきよめさん」の人形を創ってくださいました。

いつも短い制作時間のなか、まるで魔法でも遣っているかのように次々と生まれ出てくる魅力的な人形や小道具たち。梨津子さんの誰にも真似できないセンスのよさと丁寧な仕事と斬新なアイデアには、ため息と共に「すごい！」と言わしかありませんでした。

そして人形や舞台美術を通して、創り手の思いが伝わらない演技（私）に力をくれ、子どもたちをお話の中にいざなう大きな役割を果たしているということを私に実感させてくれました。

「へっこきよめさん」の制作前のこと。どんな人形にしよう？ 背景画は？ と沢山の本を出してきて見せてくれ、梨津子さんの構想を熱心に楽しそうに話してくれました。梨津子さんの部屋はあらゆる分野の専門書から小説まで沢山の書籍で一杯。とにかく知識豊富で、それが創作活動にも活かされていた。

ある時台本を読み終えた梨津子さんは、「もう少しね」と優しく言いました。数日後、二人でお

れていく姿に、さすが！と思いました。

これまでとはまた違った、まさに「ほんわか」とした舞台設定と雰囲気のおかげ、子どもたちもすぐにお話の中へと引き寄せられ、食い入るようにとても楽しく観ることができました。あつという間に時間が過ぎました。

茶を飲んでいる時、「嫁さんがプーすると、竈に火がつく。プーすると布団をたためるの」と笑いながら楽しそうに私に話してくれました。台本書きに苦しんでいる私に何気なくそつとアイデアをくれたのです。

人形がで上がった時に思わず「人形を手放したくないって思ったことはないんですか」と聞いたことがあります。「ないよ。人形が動いているのを観るのが好きなの。（劇に）出ているだけで満足するのよね」とあつげからんと答えた梨津子さん。

その梨津子さんは、私たちにたくさんものを残し、平成28年12月4日に旅立たれました。もし向こうの世界があるのなら、初代代表とはどんな話をしているだろうか……。聴きたいなと思うのは、私だけではないでしょう。



制作より

たいへんな手間暇をかけて作られていることがわかるお餅つきは、食育としても意味深いものだと思います。

あけましておめでとうござい
す。今年もこのご挨拶ができるこ
と、幸せに思います。先生方は、
子どもたちとどんなお正月を過ご
されましたか。

お餅つきやお正月遊びなどの行
事のお話も、先生方からよくお聞
きします。
普段何気なく食べているものも、

また、お正月遊びは、特別な感
じがあり、とてもわくわくします。
風揚げ、独楽回し、はねつき、す
ごろく、かるた、福笑い…。勝ち
負けを競うというよりは、どれだ
け長く続けるかを固唾をのんで見
守ったり、失敗したことをお友達
と一緒に笑い合ったり、のんびり
と楽しめる遊びが多いと思います。

園からのおたより

長野県上田市常田保育園よりいただきました。
『そっくりのくりのき』観劇)

劇団すぎのこ様

先日は素晴らしい劇を子どもたちに観せてくださり、ありがとうございました。子どもたちはとても感動し、いろいろなことを感じたようです。その日の延長保育などで自分たちからくりの木の絵を描きだし、他の子たちも「描く!」と、たくさんの手紙が集まりました。「絶対すぎのこさんに送ってね!」とのこと、取り急ぎ子どもたちの気持ちをお届けします。

これからも、素敵な劇を子どもたちのために上演してください。時節柄、お身体をご自愛くださいませ。



事務局より ご挨拶



(榎本 千里)

あけましておめでとうござい
ます。

いよいよ平成30年が始まりまし
た。皆様にとって、幸せに満ちた
一年でありますようご祈念申し上
げます。

旧年中は、多くの方々にご観劇
いただき、各研修センターにおい
ても、関係団体をはじめとした多
くの方々幅広く活用していただ
くことができました。また、巡回
劇場をご観劇くださった皆様、賛
助会の皆様、補助・助成団体のご
支援等を賜りながら運営が行われ
ており、関係各位の方々に心より
お礼申し上げます。

創立から始まった「どの子にも
ナマの舞台の感動を!」という理
念は、これからも変わることなく
更なる進化を目指し、皆様へ心の
満足を提供できるよう日々精進し
て参ります。

昨今、激流ともいえる環境変化
に伴い、様々な技術の発展で生活
する上では便利なことが多くなっ

発声・歌遊び講習会

今回は、以前に発声講習会を
行つた福島県三春幼稚園で、人
形劇俳優1名をメインに発声、
歌遊び、手遊びの講習会をさせ
ていただきました。

初めに、前回の復習でもあり、
俳優の私たちがいつも行っている
発声、声を出す、声を届かせ
ることを基本に、腹式呼吸の意
識の仕方や息の吸い方などを先
生方にしていただきました。発
声講習は前回させていただいた
ので、5分程度のおさらいとし
て行いました。

びを多く教えて欲しいというご
希望でしたので、以前手遊び、
歌遊びの勉強会で教わった内容
や、人形劇俳優としての、どう
やったら子どもたちに声を届か
せるか、などの俳優としての目
線を交えつつ行いました。

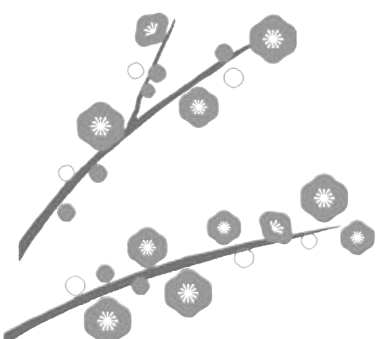
先生方には楽しくやっていた
だけたようです。「手遊び、歌遊
びを子どもたちとする時に、自
分も楽しむということを久し振
りに思い出しました」という感
想をいただきました。先生方が
非常に温かく迎え入れてくださ
ったので、1時間とてもよい雰
囲気で、講習会ができました。

(星野 翼)



たのではないでしうか。しかし、
一方では人と人のコミュニケーション
や表現力の低下が危惧されて
います。こういった背景を考慮す
るなか、今後の公演活動を通して
情操教育の一助となりますれば幸
いです。今後ともご指導ご鞭撻の
程、よろしくお願い申し上げます。

(中條 靖浩)



劇団研究生を 募集しています

すぎのこでは、子どもたちにナ
マの舞台の感動を届ける仲間(劇
団研究生・人形劇俳優)を募集し
ています。全国の幼稚園・保育園
や各種イベント会場・劇場などで
人形劇の公演活動を通じ、たくさ
んの笑顔に出会えることがこの仕
事の魅力です。巡回公演が中心で
すので、長期間の出張が可能な方
子ども好き、旅好きの方で興味を
持たれた方はぜひ、私たちの活動
に参加してみませんか。尚、未経
験の方は研修・指導を行います。
活動内容や条件等、詳しくは左
記へご連絡ください。
E-mail: info@suginoko.org

または042-971-4121
(飯能研修センター)



活動記録(平成29年10月~12月)

11/28 手遊び・歌遊び講習会

於・三春幼稚園(福島県三
春郡)

12/26 第二学期全国巡回公演終了